

## LGBTQ+の理解を深めるために

3年2組29番 福本梨心

Keyword: 「LGBTQ+」「価値観」「偏見」「差別」「ジェンダーステレオタイプ」

## 1. はじめに

私はLGBTQ+の理解を深めることについて探究した。このテーマを選んだ理由は私が中学生の頃、性について悩んでいる子がいじめられていて、その子に何も出来なかった自分に後悔しているからだ。今の世界ではLGBTQ+について様々な取り組みがされているが、未だに身近なところではそういったいじめが起きているという現状がある。私は身近なところで少しでも性によっていじめられる子を減らすために何が出来るかを探究する為、このテーマを選んだ。

## 2. 序論

私はLGBTQ+への偏見がまだまだあるのは、幼少期から根付いた男女の差別化が原因であり、身近なところから少しでも偏見を無くしたいと考えている。京都大学大学院文学研究科の森口 佑介他(2022)によるとジェンダーステレオタイプというものが存在し、実験によると7歳頃から「男性＝賢い」「女性＝優しい」などのジェンダーに対する思い込み(ジェンダーステレオタイプ)が起きていることが分かった。つまり幼少期から根付いた価値観で女の子と男の子の壁が生まれてしまうのだ。私は男女が1番共存する場所である学校の環境がジェンダーステレオタイプを生み出す原因となっているかもしれないと考え、国際高校でアンケートを行い、その意見を元に研究を進め、今の私たちにできることは何かを考えました。また、社会では今どんな取り組みがされているのかも調査を行った。

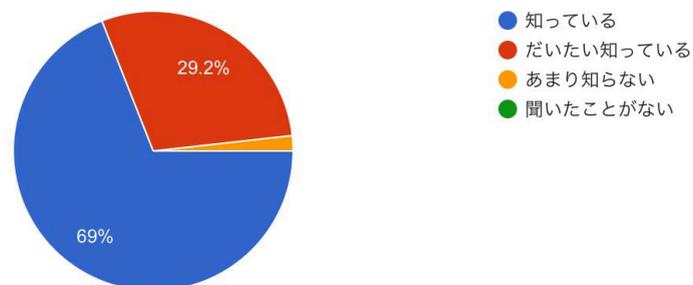
## 3. 本論

まず、身近なところでLGBTQ+に対して具体的にどんな偏見が起こってしまっているのか、性に対してどのようなイメージをみんなが持っているのかを調べるため、国際高校でアンケートを実施した。アンケートでは①LGBTQ+とは何か知っていますか？②LGBTQ+についてどのようなイメージを持っていますか？の2つの質問をした。

## ①の結果

LGBTQ+とは何か知っていますか？

113件の回答



①のアンケートの結果、国際高校の生徒の間ではLGBTQ+という性に関する区分があること自体は理解されていると分かった。

次に②の結果について、文章回答を一部抜粋して掲示する。

LGBTQ+についてどのようなイメージを持っていますか？

113件の回答

私の身近に該当する人がいないので、自分にはあんまり関係ない感じがしてるし、今のご時世だとまだ、打ち明けてない人が多い印象がある
多様性と言われるようになって世間にはいまだに受け入れられない。
その人自身の自由なので、良いと思う
心の性にいろんな種類がある。活動家がいる。
けっこう世になじんでいるように感じる
よく話題になっている
自分を隠しているイメージ
少し細かく分けすぎている

②の結果では、様々な意見があった。「いまだに受け入れられない」「自分を隠している」「イメージは特にない」などのネガティブな意見が目立つ結果となった。

#### 小学校の学校環境

- トイレのスリッパは女子がピンク男子が青
- 運動会のポンポンの色が男女別だった。
- 男女でマラソンの距離が違う。
- 運動会の役割分担が男子は力仕事、女子は装飾
- 教科書のイラストで働く人は男子、家事をしている人は女子で描かれている。

①でLGBTQ+が存在するというものの理解は深まっているのに対し、ネガティブなイメージが多いのはやはりジェンダーステレオタイプが幼少期から根付いてしまっているからだと考察した。そして私は学校教育の入口である小学生に通う妹に、現在通っている学校の環境について聞くことにした。

このような環境だと、ジェンダーステレオタイプが起こりやすいと感じた。

私はこれらのアンケートの結果からジェンダーステレオタイプが1番根付く小学生に焦点を置いて今自分に出来ることを考えた結果「小学生の頃からLGBTQ+について知る機会を増やす必要がある」と考えた。

#### 感想まとめ

- 男の子はピンクを選んでもいい！
- 私は青も好き
- 女の子も男の子と一緒に遊んであげる
- おままごとが好き

そして私は小学校でも分かりやすくLGBTQ+について触れられる絵本の作成をすることにした。そして制作した絵本を妹含め妹の友達6名に対して読み聞かせを行った。また読み聞かせをした後に感想をその場で提示して貰った。感想については左図の通りである。

この結果から小学生からLGBTQ+について触れる機会が多ければ、少しでもジェンダース

テレオタイプが軽減され、性についての偏見が少しずつ減るのではないかと思った。

#### 4. 結論

調査結果から、LGBTQ+への認知と、それに対するイメージの形成には、大きなギャップがあることが分かった。また、知っているだけでは、理解や受け入れに至っていない現状があると知った。

そしてその背景には、学校で繰り返される性別による役割分担が存在することが明らかになった。トイレのスリッパの色、運動会での役割、教科書のイラストなど、こうした小さな積み重ねが、児童たちの中に「こうあるべき」という固定観念を作り上げている。よってLGBTQ+の理解をもっと深める為には、ジェンダーステレオタイプが1番起こりやすい小学生のころからLGBTQ+について学ぶ機会をもっと増やすべきだと考える。

#### 5. おわりに

探究を通じて気づいたことは、LGBTQ+への理解が進まない理由は、決して難しい理由ではないということだ。単に、子どもたちが「こういうものもある」という情報に触れる機会が少ないだけなのかもしれない。

自分も最初はLGBTQ+について正しく理解していなかったし、小学校で習った覚えもない。だからこそ、今なら小学校に行って、直接子どもたちに多様性について伝えたいと思うようになった。絵本を読み聞かせることで、難しく説明するのではなく、自然な形で「世界にはいろんな人がいるんだ」と伝えていきたいと思う。

#### 6. 参考文献・出典

「子どものジェンダーステレオタイプが生じる時期を解明」『京都大学』2022年10月11日 (<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2022-10-12-2>) (2025)

「LGBTQ+とは？それぞれの意味と当事者が抱えている問題、企業事情などを紹介」 『SDGsコンパス』2023年12月26日 (<https://sdgs-compass.jp/column/6814>) (2025)